西垣文庫
文庫10
6748

黄金の花猫の物語

假名垣魯文作
一孟齋芳虎畫
藤岡屋壽梓

文庫10
6748

一

張端

作者魯文が竹馬の友なる講談師伊東

燕國の猫の妙を得られば世の人猫燕國と称へ何処の席も大入なるに行はれぬ。その内大の猫好りを故人國芳に等しく家よりなる猫を飼ひ平常これを愛翫す魯文鼠をあそぶこれを蛇よりも甚しきを友人燕國の許なる猫を乞ひ受て家に畜ひいろいろ拙の防とせるに今年梓主松林堂より

初編

文久三癸亥春

魯文作

今昔百猫傳

國猫

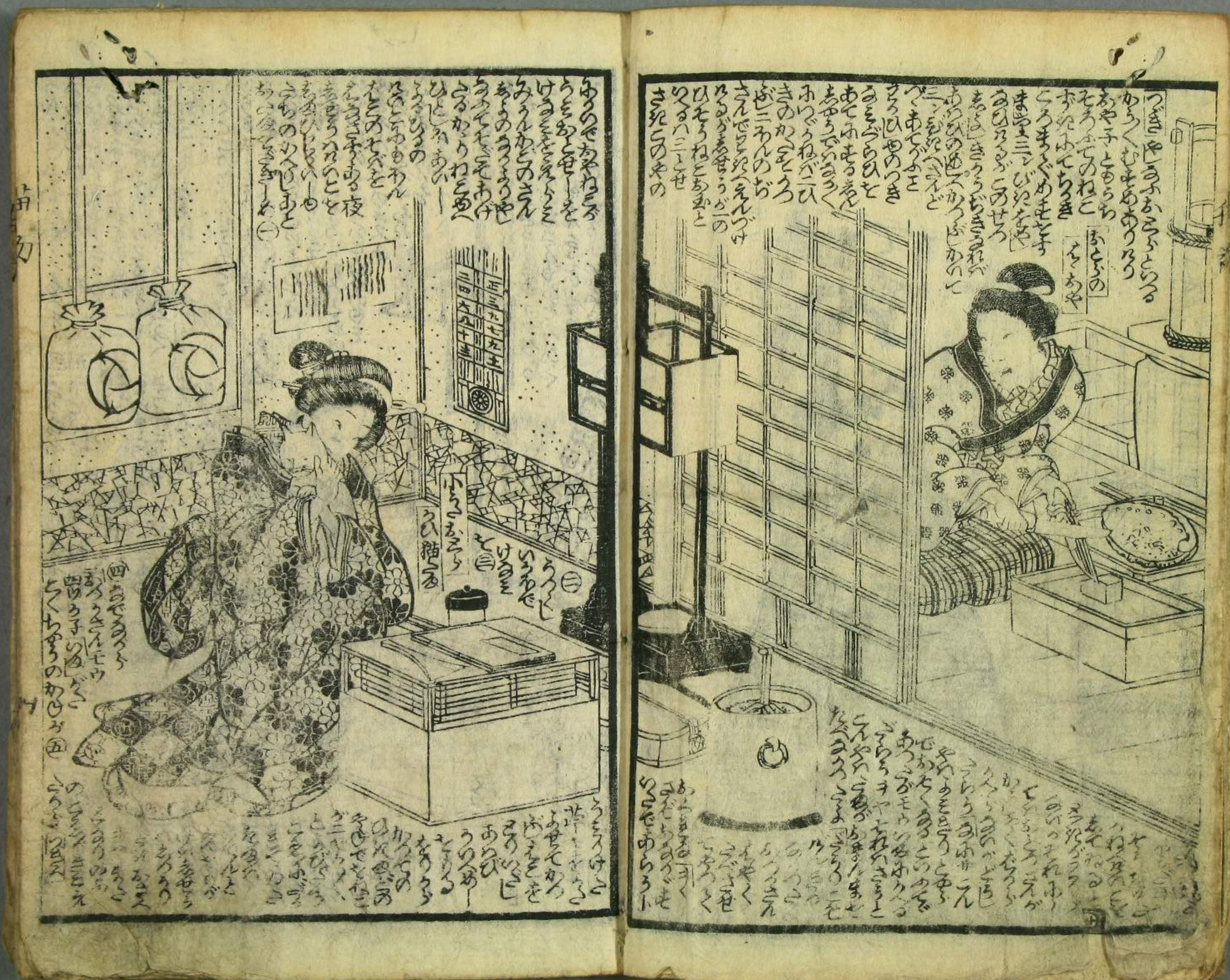
伊東ふ児國

つゞき 京山翁が猫の草紙を當世風に翻案と大急ぎの注文それが猫脚の机にかゝり猫の月中まで考へても市

困る二本目の扇の猫骨折がひあく夜辺の油と根気の減るを常として功もない智恵を絞れど更に案事が付ぬ所詮今夜のことはいゝかねむくなつてきたから机を押やり夜着引かつて打臥る真夜中頃とおぼしき時分勝手の方にてがやがやと物音をするが耳に入り図目が覚て密かに窺へば盗人が入るろとまた熊坂袴ぐれ五右衛門

ざのがごとくなれば鍋釜のイト盗まるゝ金銭あるれば安心あがり落付て寝てもあるれど
扨後く寝床を這起て枕元の建おきたる二枚折の屏風の蔭より抜ろ出
覗けば云らに燕國より貰ひ受るゝ畜の老猫近隣乃猫ども打
をどゝ其身い米櫃の上ゆ高坐をし(後ち柱ゆ百猫傳伊東ゆ見國ゆ
ル)でひつこのき雙節箱を机とゝ削このあの雙節ゆそトシくと拍子とち
稿こあゞ声に説出せ耳にのゝしき猫はゆしを作者い息をころ
しゝて覗ひ聽ゝるまゝに腹ゆ収られを趣向ゆ筆と採畢に初編
の稿を脱せをを也を勸学院ゆたゞ死い蒙求をきづ
もん前の小僧ゆゝつね經をゝむゝのゆゝ講釈師の
家り畜生ゝかゝある祢とゞ講談を弁ゞゝナつゝゝと
天理はゝて文に怪むとゆ孔ゞに兄と子供衆がてんゝく

千時文久三亥春　假名垣魯文戯作

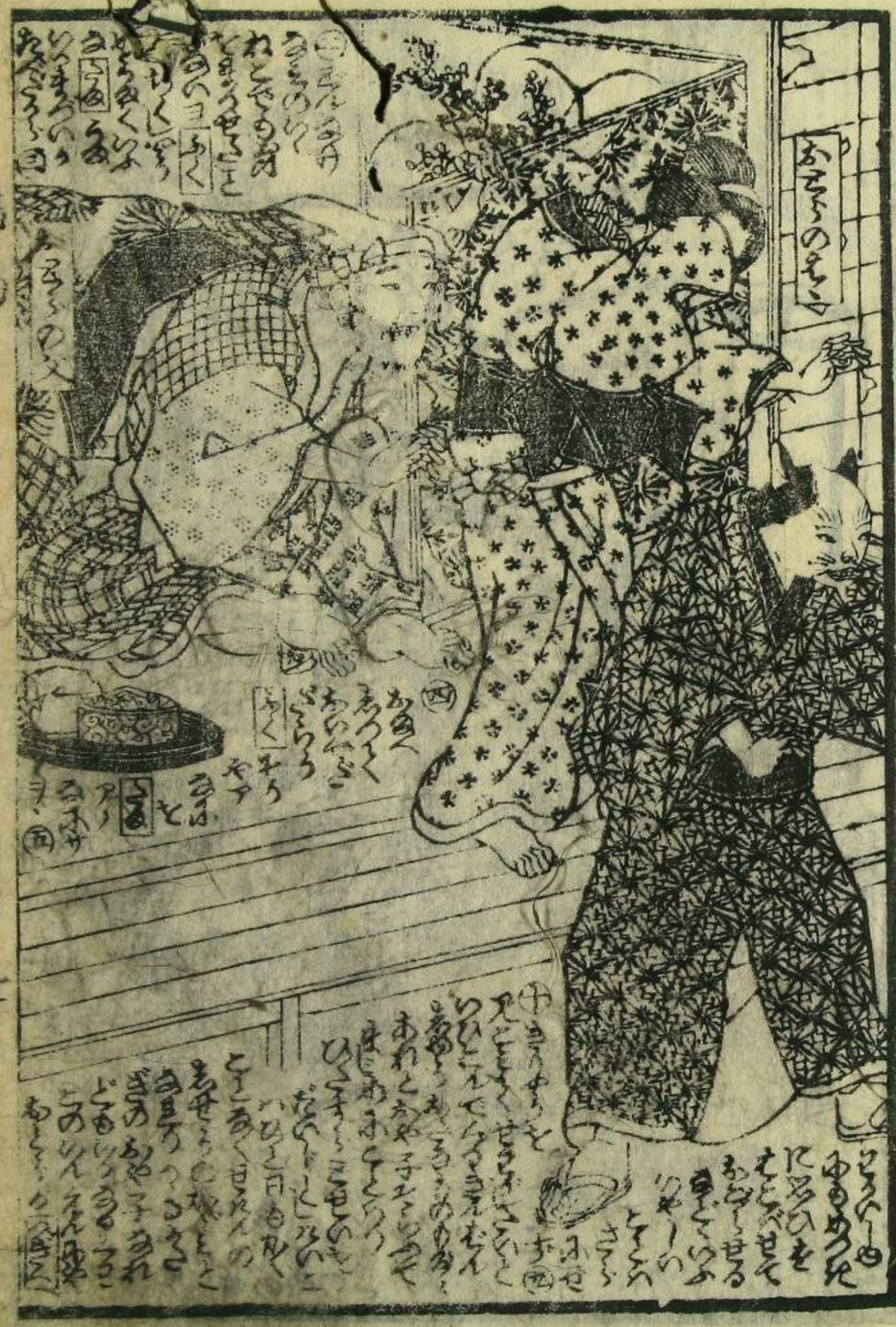


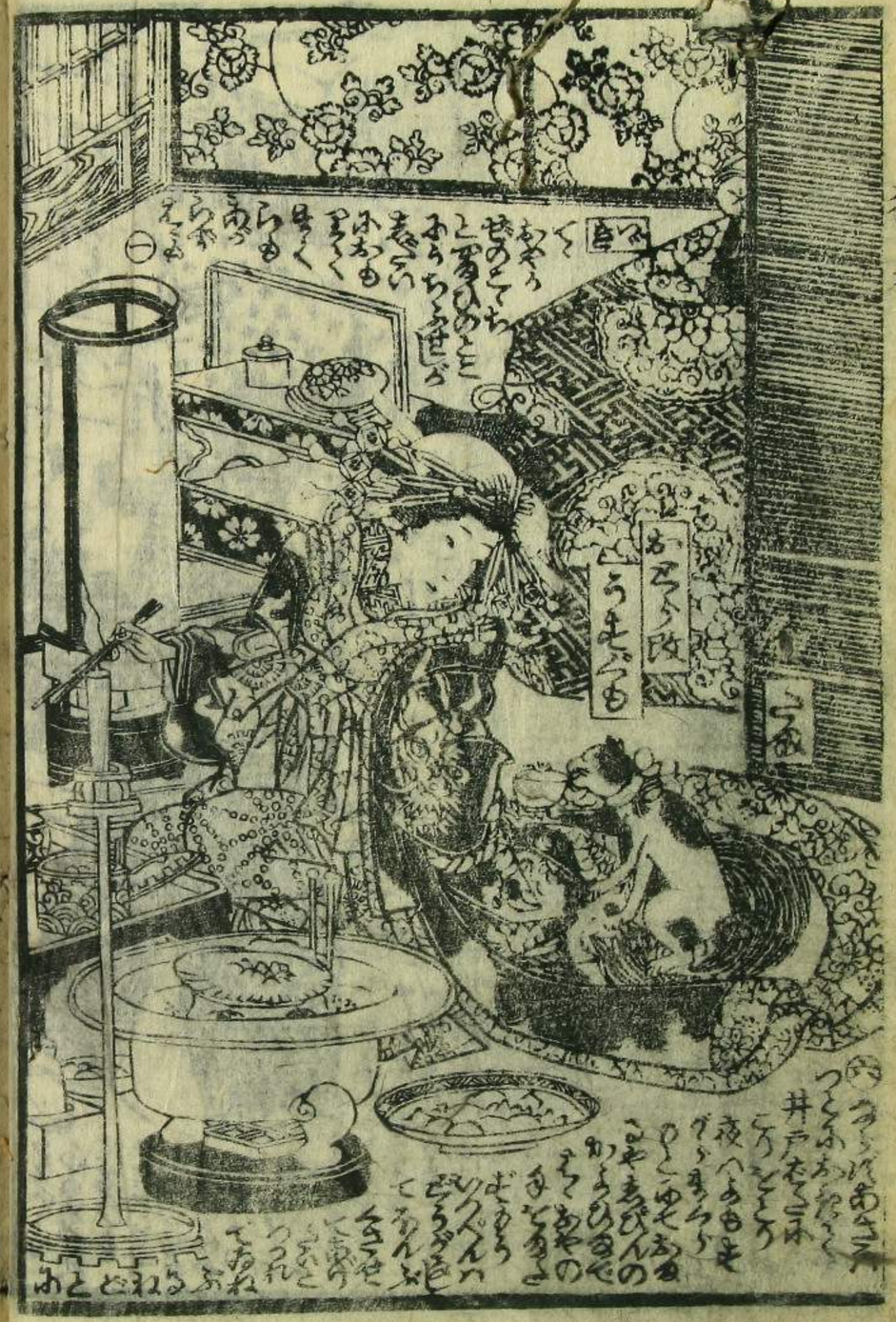
其二

ふく

ふく

第二回



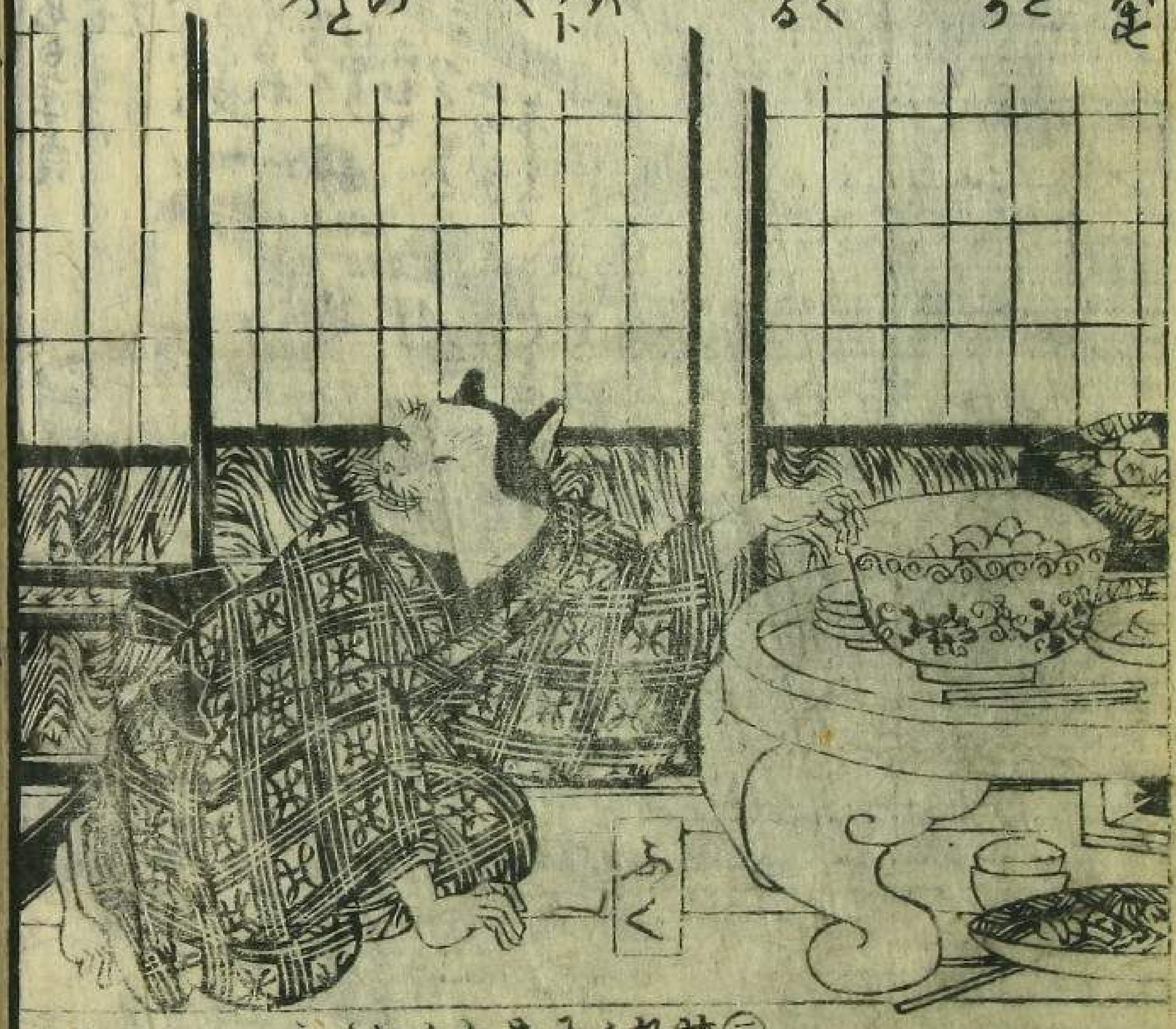


つゞき

[illegible]

其二

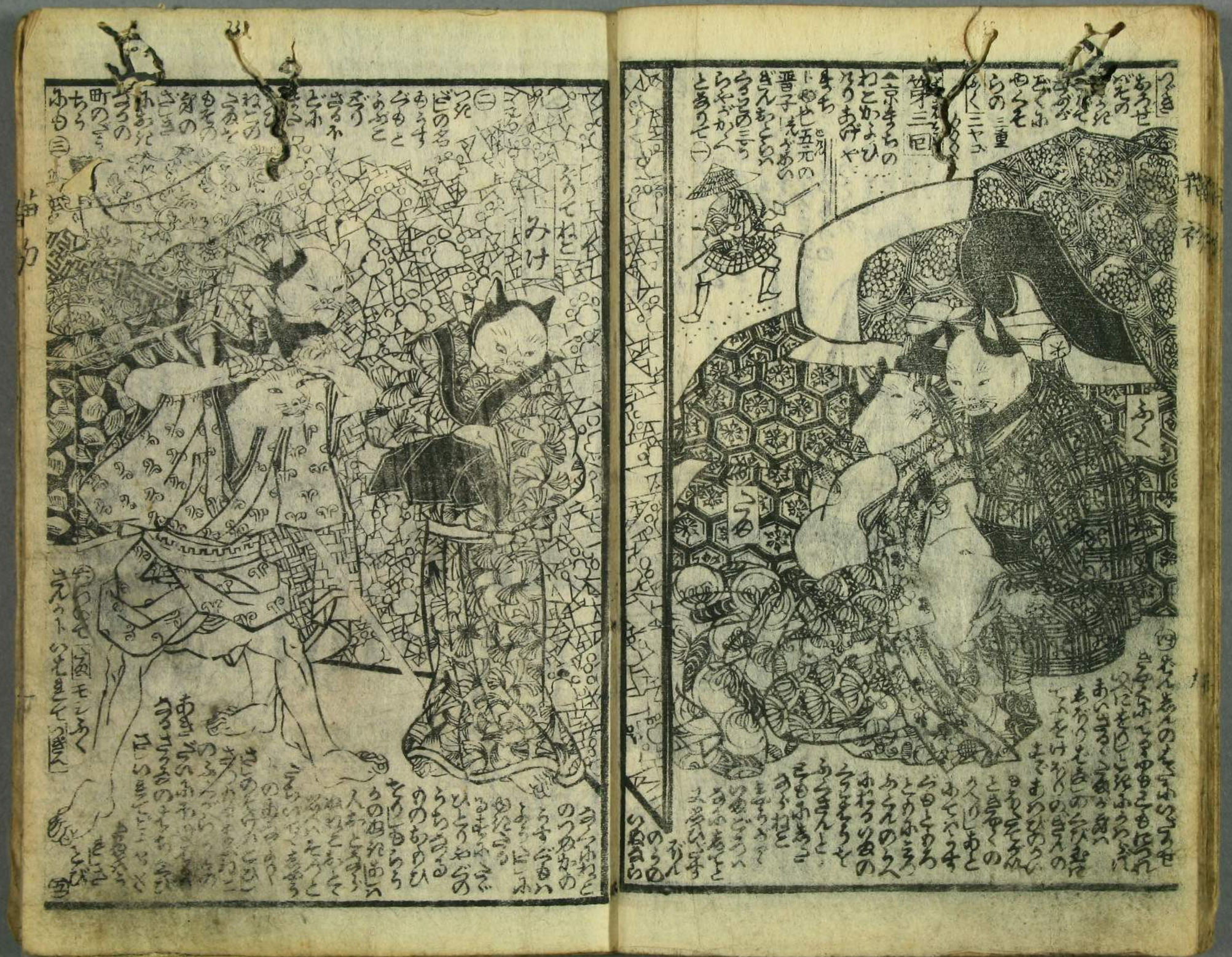
[illegible]



(二) [illegible]

[illegible] (一)

[illegible]



かゑ姫勇文化
長亀芳虎画
下

ふく
曾文作
芳虎画
上

鑛花猫目鬘　初編之下

かなぢ作

一蓋志芳虎画

松林堂梓

猫物
うすぐも
をけ

ぎろう猫
大どん猫
家来
ひんく猫
ひんき猫
うふう猫

第四回
ひね巳猫
けとろ
もぐたや
ねの上の
そう上
うふう猫
ぎろう猫

女郎花の
てらし猫
うろう猫

其二

ふく二郎

うつろ
ふく

うつろ
ふく

めねこちゃう
白らのうい猫
どんぢう屋

第五回
もうりん ニャノゴ

とうやう猫
すぐ
すぐ

ごうらい

ごうたろう

松林堂

聖徳太子御一代記	全一冊
親鸞聖人御一代記	全一冊
同 廿四輩圖會	全一冊
傳教大師御一代記	全一冊
一休和尚御一代記	全一冊
圓光大師御一代記	全一冊
日蓮上人御一代記	全一冊
西行法師一代噺	全一冊
弘法大師御一代記	全一冊

書

俳諧大語林	一冊	全一冊
同	一冊	全一冊
夢之助	一冊	全一冊
同	一冊	全一冊
一本咲き	一冊	全一冊
事榮大語林	一冊	全一冊
同 七四軍	一冊	全一冊
驚聲異人伝	一冊	全一冊
軍談大平記	一冊	全一冊

柳猫の盛鰻。高麗唐土といひつゝ色び。猫の皮を弾唄ふ。
大盡舞の小唄めつてく。猫ぢやぢやの古事
來歴。山東翁が大槩尺せば。猫の尾尾は
僕輩が又いのさつに何ぞの云ん。唯
古猫の足跡をふみの取次手書は
猫ぢ。話説を種よりのちに柱の凡乃
拾遺談猫の目假面時ぐろ。變る浮世の
流行を穿鑿といつて鳴呼。亦中。已が勝手ぢの歩行ふ。
流下のつゝと捜し。塵塚の奥を探て次編の腹稿を満うるむ

文久三亥春叢兒

假名垣魯文記

女三の宮ホ比
町家の娘
水揚帳
萬覺帳
金銭入帳
行こうか 室井 琴彦
くるくる
まりの 猫の恋
柏木右工門殿
高家の一雅

使のおやち
ちんちん
うすぐも

猫の目うぢ二編
第一回

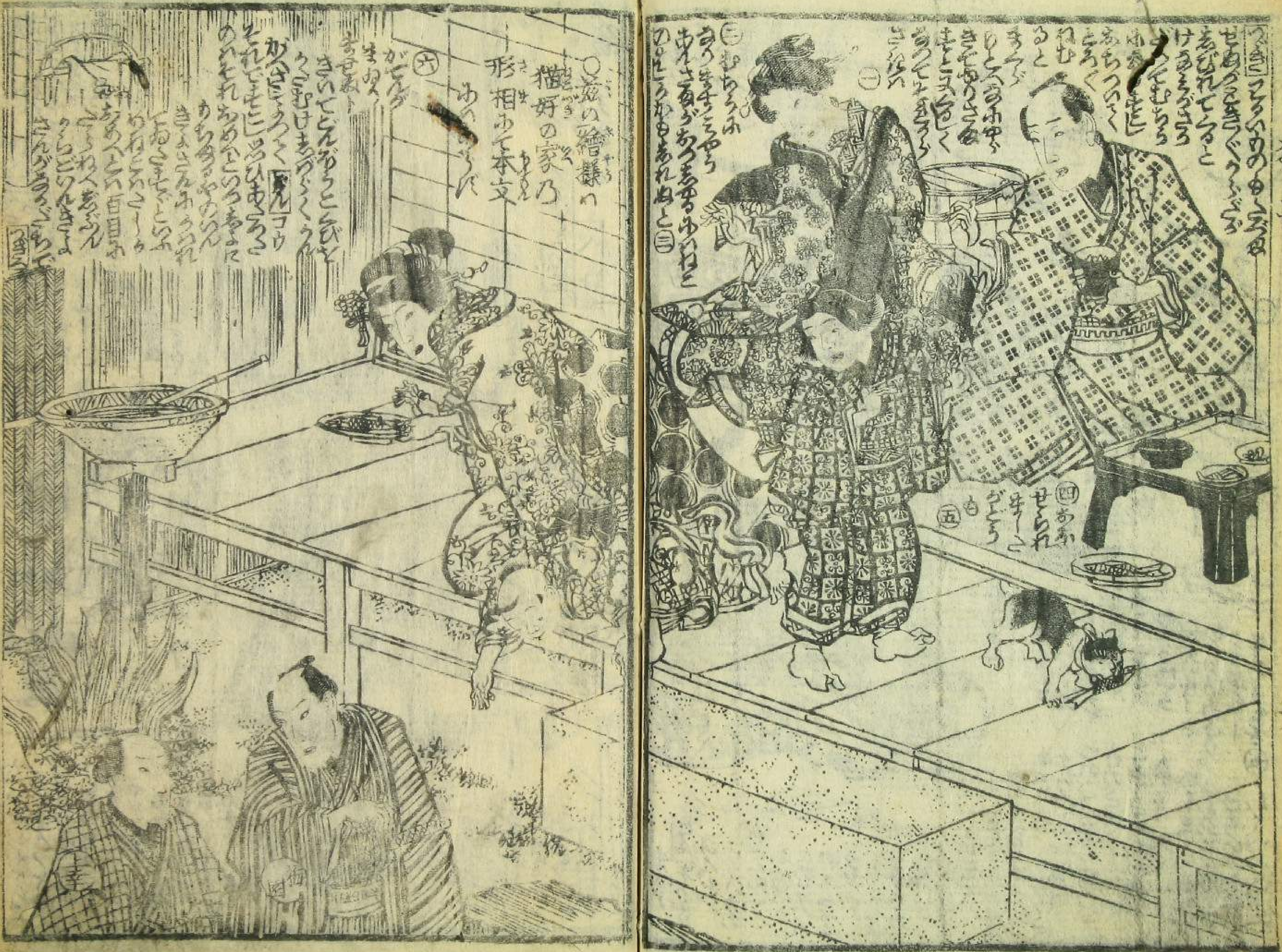
使のおやぢ

其二

第二回
猫庵
どんぞう

よしえ画

ふく
たま
どんぞう


猫好の家乃
形相

ぺけ
鳥獣天譜
地本問屋
鳥獣天譜
地本問屋

扇面亭

べけ
猫まん

西行菩
即席
たま

假名垣魯文作

一恵齋芳幾画

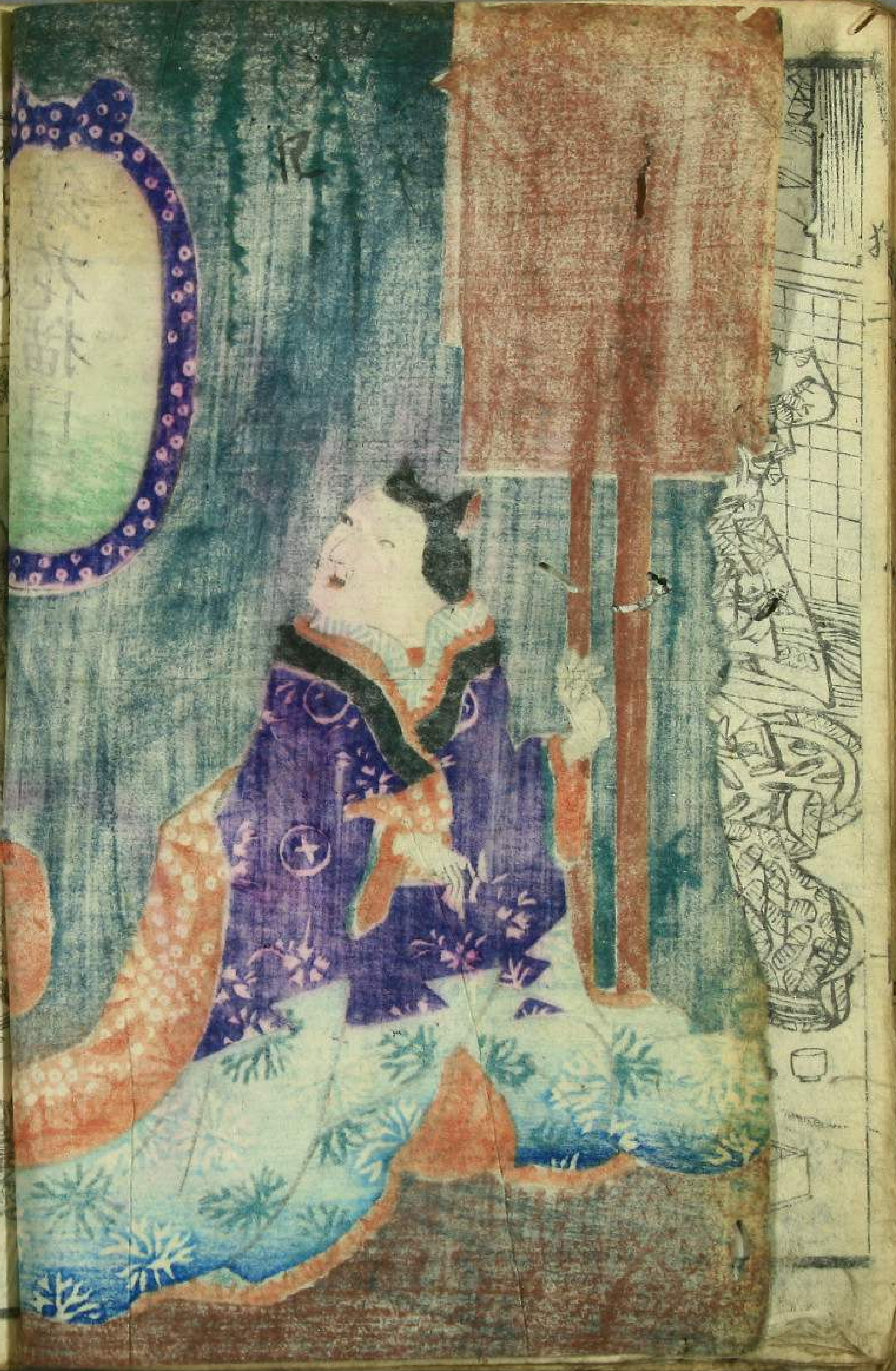
松林堂壽梓

鏑花猫目覆

二編下

第三回

あるひちやゝの二かいの
のまどに[illegible]
人けのおかみねこといふ
がひきうけのあるじの
さかなやのおとこの
のとりのかつぶしを
とりせし　さけをのめ
かつをぶしやのぺけが
わるいかんがへをおこし
きのあるでもやねこの
あくつきがまつりをして
つく ぺけ ときしさく
おもしろうおまくと
ぶつひとまちとおもしろ
つれあいぞや
そのやかないを
そこそこあるの
きのふやの
とうのかやや
あの[illegible]さんは
うちまくねこの
とうしもとるの㊀

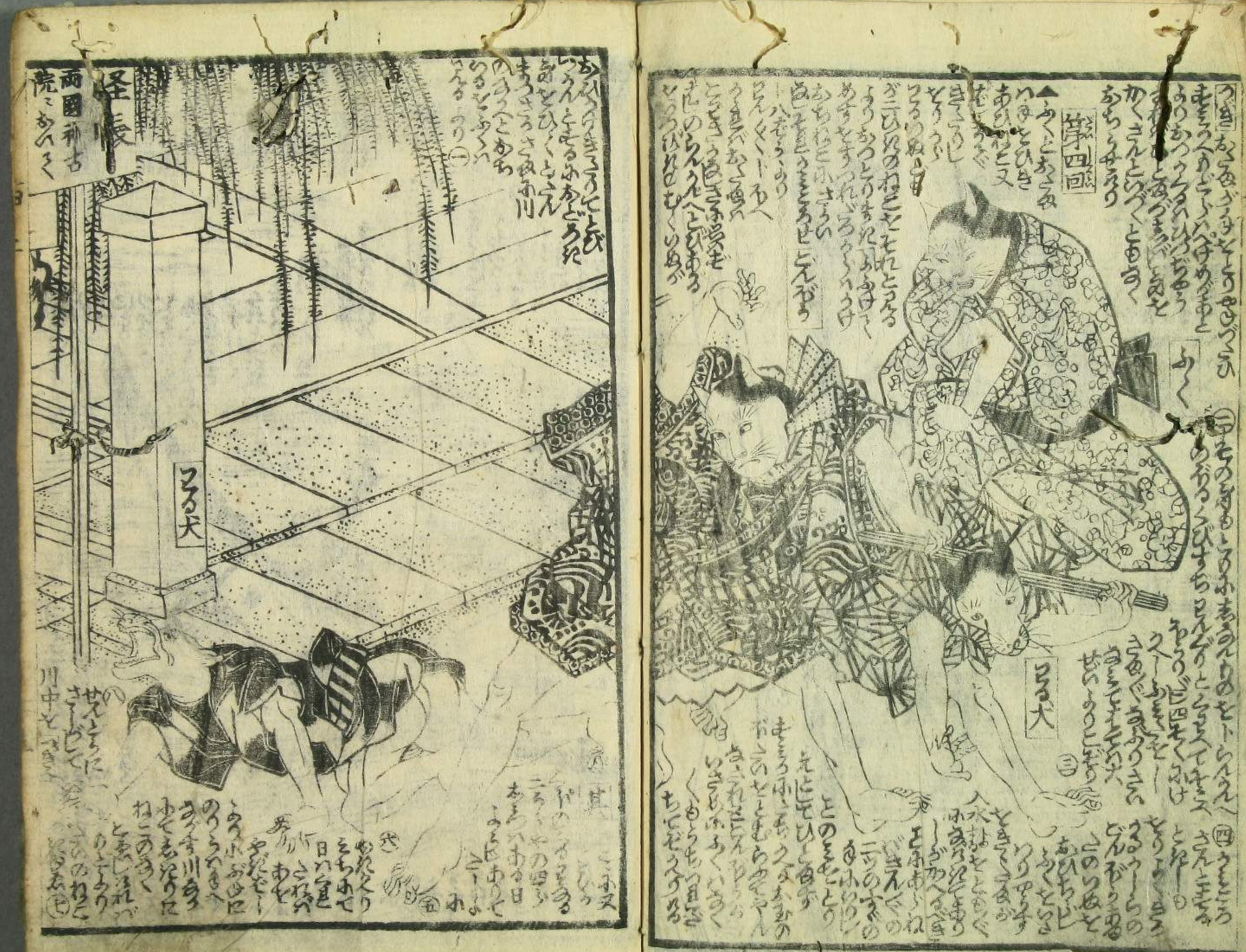


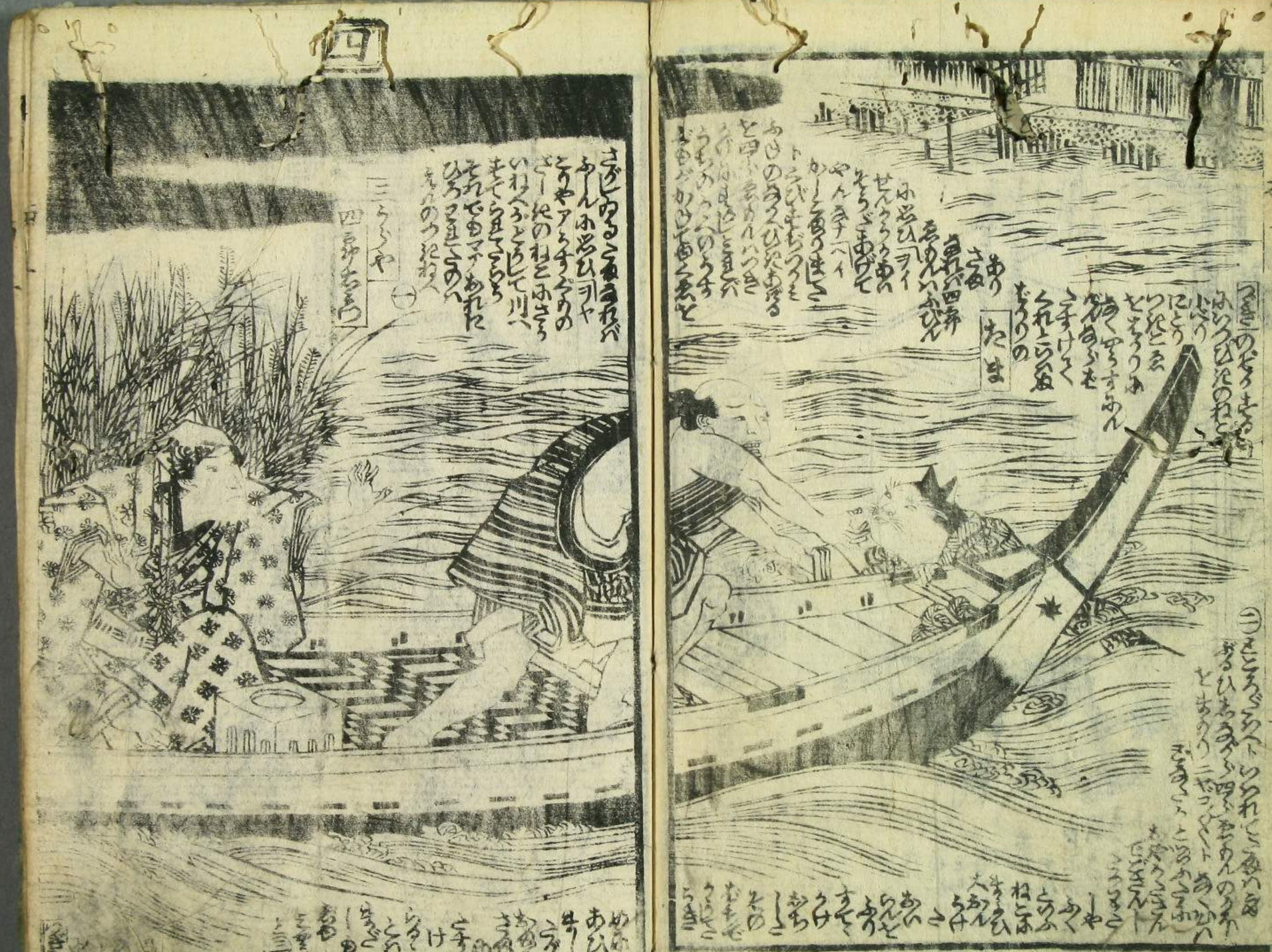
たま

ぺけ

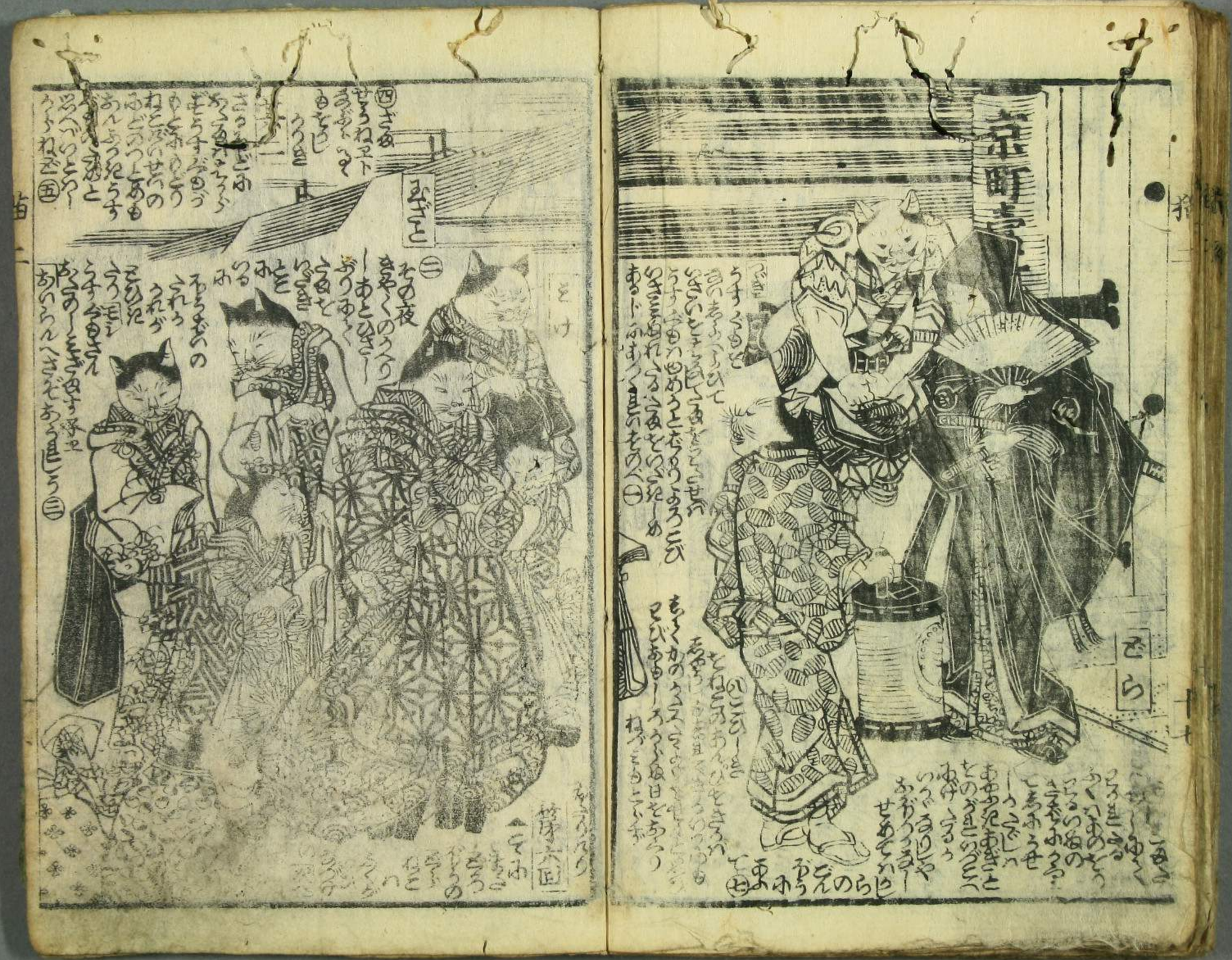
ぺけ
猫
魚

丸生


第四回
ふく
ろる大
怪談
両國神社
院こあへく
ろる大


たま

三ちゃ
四郎ちゃ


京町壹
ぢら
むざと

ねずみ
ぞうり

朝霞樓芳幾画

假名垣魚曽文作